

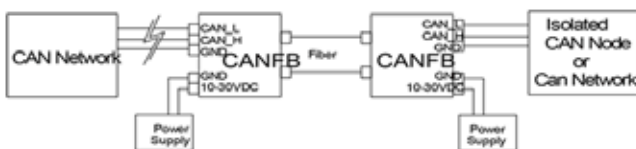


特長

- CAN信号・ツー・ファイバおよびファイバ・ツー・CAN変換
- 光ファイバによるサージ、スパイクおよび電氣的ノイズ耐性
- DINレールマウント
- ターミナルブロック:カッパーケーブル接続
- STコネクタ:光ファイバ接続

CANFBカッパー・ツー・ファイバコンバータは、CAN信号をカッパーからファイバおよびファイバからカッパーへ収束します。CANFBモデルは、ノイズの多い過酷な環境下でCAN (Control Area Network)システムのコンポーネントを破壊するサージおよび過渡現象から隔離し保護することができます。CANFBは、CANシステムのための光学的に絶縁されたカッパー・ツー・ファイバコンバータです。これは、システムの重要なセグメントをCANネットワークの他の部分から分離して保護します。コンバータは、プロトコルに依存しないため異なるCANプロトコルおよびフレーム長をすべて使用できます。

CANデバイスを接続するためには、2つのCANFBコンバータが必要です。CAN信号側のカッパー接続は、ターミナルブロック、ファイバ接続は、標準STコネクタを使用します。これらのシリアル・ツー・CANコンバータは、93 x 86 x 36mmサイズの堅牢なDINレールマウントケースに収納されているので産業用キャビネットへのインストールが容易です。なお、10-30VDC電源が必要です。



産業オートメーションにおける CAN

CAN (Controller Area Network) の多層構造によりシリアルバス上のどのステーションも他のステーションと通信することが可能です。中央制御、自己診断、伝送エラーの訂正にも利点があります。多くの CAN ベースのハイレベルのプロトコルは、産業オートメーションアプリケーションで使用するために開発されました。

CAN Application Layer (CAL)、CAN Kingdom、CAN-open、DeviceNet および Smart Distributed System は、これらのバリエーションの一部です。

オーダー情報

CANFB	シリアルCAN・ツー・光ファイバコンバータ
-------	-----------------------

アクセサリ

DR-30-12 : 2 VDC, 24A DINレール電源

MDR-40-12 : Dinレール、スリム、プラスチック、40W, 12V電源



DR-30-12



MDR-40-12

仕様

インターフェース	CAN カッパー / ファイバーコンバータ
アイソレーション	2000 VDC
データレート	250k baud
ファイバー	50/125 μ m、62.5/125 μ m、100/140 μ m、200 μ m HCS ファイバー
LED	TD、RD(高速ボーレートでは認識が難しい可能性あり)
電力	約 150mA @ 12V 全負荷
ターンアラウンド	< 2 sec.
入力電源	10 ~ 30 VDC (外付電源が必要)
温度範囲	0 ~ 70°C
サイズ	93 x 86 x 36mm

ターミネーション

CANネットワークは、CAN仕様に従って両端で終端する必要があります。正常に終了しなかったネットワークにデータエラーがあるか、データが完全に失われている可能性があります。CANFBのボードには終端抵抗R8用のスペースがあります。終端には120オームの抵抗を推奨します。CANFBがネットワークのエンドにない場合は、CANFBを終端しません。

CANFBは、ビットワイズ対応であるため異なるボーレートを自動的に調整することができます。ビットワイズ対応は、すべての低位ビットを受信するときのみドライバをイネーブルにします。また、受信側のドライバは、低位ビット+最大2 μ 秒に対してディスエーブルにします。これによりCANOPからのデータのエコバックが防止されますがノードが応答を返すことができます。

ボーレート/ビットワイズイネーブル

CANFBは、ビットワイズ対応であるため異なるボーレートを自動的に調整することができます。ビットワイズ対応は、すべての低位ビットを受信するときのみドライバをイネーブルにします。また、受信側のドライバは、低位ビット+最大2 μ 秒に対してディスエーブルにします。これによりCANOPからのデータのエコバックが防止されますがノードが応答を返すことができます。使用するファイバの最大長は、使用されるボーレート、CANFBおよびカッパー線の長さに依存します。CANバスは、1ビットタイムで応答する必要があります。